令和3年度

佐那河内中学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

小中学校9年間を見通した「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員	委員
堀岡　暁美 （2学年担任・ 数学主任）	校長；内田　洋一　　教頭；二宮　正太 教務主任・3学年主任；橋本　滋　2学年主任；大草　康夫 1学年主任；髙尾　みちよ　　国語主任；久米　智宏

校長

内田　洋一

◎次の（１）～（３）をバランスよく取り組み，学力の向上を推進

【各校の取組状況の把握について】

管理職，小中教員による授業参観や報告，小中合同研修会等，様々な機会を捉え，取り組み状況の把握を行う。

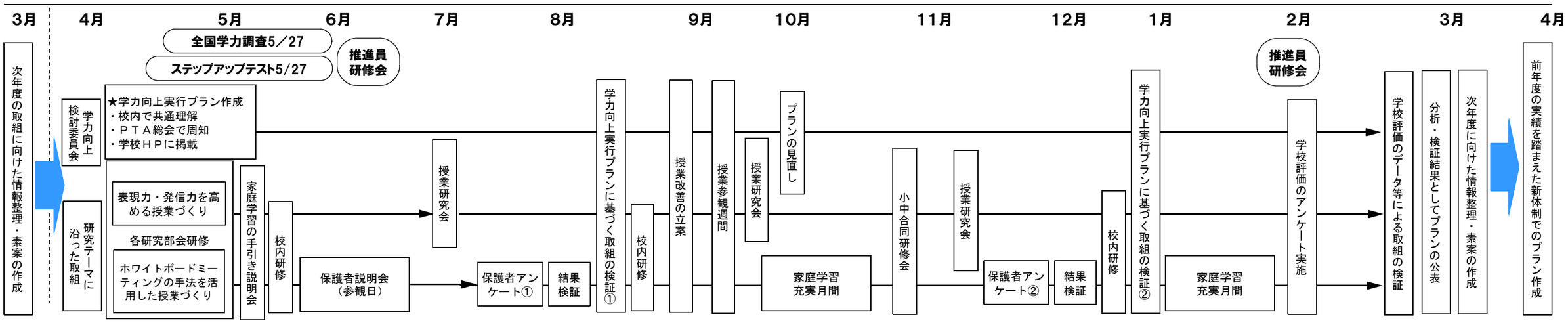
（１）知識・技能の習得

児童生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○落ち着いて授業に取り組むことができる。提出物は，期限を守って出すことができる生徒が多い。 ●家庭学習や，その後の復習ができない生徒が多いため，授業中に理解できた内容が定着していない。	・自ら課題を設定したり，仲間と協働したりしながら，解決や探究に取り組むことができる。自主学習ノートを利用して，反復練習し，知識・技能を身につけることができる。 ・読書を通して，言語活動の基礎となる文章表現を学び，日常生活の中で活用できる。	・朝のセミナーの確認を，さらに細かく行う。 ・休み時間や放課後等に「質問塾」を開催することで，生徒が気軽に質問することができる場を設ける。 ・読書記録をつけさせ，読書数の少ない生徒に声をかける。また生徒同士で本を紹介しあう機会を設ける。			

（２）思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○班学習やペア学習など，リードしてくれる生徒がいる場合は，積極的に参加して考えることができる。 ●記述式の問題で，考えをまとめて表現することに苦手意識をもっている生徒が多い。	・記述式の問題に対しても，根拠を明確にして意欲的に取り組み，自分の思いや考えを分かりやすく伝えることができる。 ・個人で考える時でも，粘り強く解決策を見つけようと努力できる。	・記述式の問題に慣れさせる。 ・生徒が自信を持って取り組めるように準備を充実し，経験を積ませる。 ・タブレットを用いて，自ら調べる時間を設定することで，生徒の情報収集・整理・分析する力を養成する。			

（３）主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○英語検定に対する向上心をもつ生徒が増えた。 ○苦手を減らし，学力を高めるために自ら課題に取り組む生徒が増えた。 ●テスト前における家庭学習の時間にばらつきが見られる。	・英語検定受検率80%以上を目指す。 ・教師側から与えられた課題をこなすだけでなく，自分で目標を決めてそれを実行することができる。 ・学習計画や学習の仕方を自分で工夫することができる。	・昼休みや放課後に，英検対策教室を設ける。 ・何をどのように学習したのかを具体的に振り返らせる。それに対して助言する。 ・エラーズノートを活用することで，生徒が自ら復習できるように支援する。			

令和3年度　学力向上ロードマップ